



第 4 章

施策の推進の視点

第4章 施策の推進の視点

第1章第2節で本計画の基本的な考え方を、第3章でめざす子ども像と教育の姿を提示しましたが、本市の教育を推進するにあたっては、子どもたちが大きく変化する社会に適切に対応し、「生きる力」を培うことが大切です。そのため、教育の視点を4つ定め、今後10年間の教育施策を進めていくこととします。

同時に、生涯にわたって基本理念を活かし続けるため、「木津川市生涯学習推進計画」との関連も図ります。

視点1 子どもの未来への見通し

子どもの発達段階にあわせて、それぞれの段階に応じた教育を進めていくとともに、幼保小中の連携を進めることにより、計画的、系統的、継続的な教育を進めます。

また、教育は幼児期の教育や学校教育だけで終結するものではなく、生涯を通じて学び続けることで、自らを高め、豊かな生活を送るとともに、社会に貢献できるものです。それらのための体制や環境整備を進めていく必要があります。

視点2 多様な子どもの学び

全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現をめざすとともに、家庭や地域社会、関係機関との連携した学びや、多様な人とのかかわりからの学びの機会の提供、さまざまな背景を持つ子どもたちの学習機会の保障を実現します。

視点3 木津川市の特色や資源の活用

本市には多くの国宝や重要文化財、豊かな自然環境があります。これらの資源を有効に活用することで、ふるさとである”木津川市”を知り、愛着と誇りを持つ心を育てます。

また、関西文化学術研究都市に代表される最先端の科学技術を誇る研究所や企業が立地しており、その地理的優位性を存分に生かした教育を進めていきます。

視点4 ICTの積極的な活用

新型コロナウイルス感染症の拡大により社会生活のみならず学校教育も大きく制限を受けましたが、これを契機として1人1台端末の配備が完了し、学校でのICTの活用が大きく進みました。「超スマート社会（Society5.0）」に向けて、今後ますますICTの利活用による教育への変革が進んでいく時代となります。本市においても、これまでの学校教育で培ってきた教育手法とICTを最適に組み合わせ、時代に応じた多様な学びにつなげる教育を推進します。

生涯学習推進計画との関連について

本市の生涯学習の推進にあたっては、「木津川市生涯学習推進計画」（人をはぐくみ ところを結び まちを創る ーきずなプランー）で、すべての市民が生き生きと充実した人生を送ることができる生涯学習社会の実現をめざしています。

生涯学習を取り巻く環境は、価値観の変化や核家族化、高齢化の進行などにより社会環境が変化する中で、生涯学習をきっかけとして地域や社会に参画できる仕組みづくりが求められており、今後ますます、家庭・学校・地域社会の連携が必要になってきます。

市民一人一人が自らの意思で生涯にわたり協働的に学ぶことで自己の教養や技能を高めることができます。

また、生き生きとたくましく生きるための基盤となる健康や体力を生涯維持していくためには、幼少期の楽しく体を動かす習慣を身に付けさせる取組と生涯にわたってスポーツを学び楽しむ習慣を持たせる取組との関連を図っていかねばなりません。

生涯にわたって学び続ける意欲と態度をはぐくむためには、学校教育と社会教育が同様の視点を持って、それぞれの施策を推進していかなければなりません。本計画における様々な施策は、「木津川市生涯学習推進計画」との関連を十分に図る必要があります。

基本理念

めざす子ども像

共に「学び」「喜び」「成長し」
未来を力強く生きる“きづがわっ子”

めざす教育の姿

一人一人の可能性を
伸ばし、多様な幸せを
実現する力をはぐく
む

一人一人が輝き、持続
可能な社会の一員と
しての基盤をはぐく
む

木津川市の力を結集
し、地域社会全体で守
りはぐくむ

重点目標

- 1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」
- 2 多様性を尊重し合う豊かな人間性
- 3 健やかな体の成長
- 4 持続可能な社会を築く生きる力
- 5 学びを支える教育環境の整備
- 6 地域を学び、家庭・地域とともに生きる

- 視 点 1 子どもの未来への見通し
視 点 2 多様な子どもの学び
視 点 3 木津川市の特色や地域資源の活用
視 点 4 ICT の積極的な活用